

令和5年度進行管理 戦略点検シート

◎基本政策 3 活力と魅力あふれるまちの創造

主要課題	No. 33	文化資源を活用した文化芸術の振興
-------------	--------	------------------

● 4年後の目指す姿・計画期間の方向性 ●		主要課題の戦略シートで設定している「4年後の目指す姿」と「計画期間の方向性」を転記しています。
4年後の目指す姿	多くの区民が、森鷗外をはじめとする本区ゆかりの文化人のほか、多様な文化資源に親しみ、歴史や文化の香り高い本区の魅力を認識している。	
計画期間の方向性	○地域の伝統や歴史に親しむ機会の充実 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等をきっかけとして、区民が地域の文化や伝統等への関心を高めるとともに、区内にある多様な文化資源を活用し、区民が一層文化芸術に親しむことができる環境づくりに取り組みます。 ○区民に親しまれる文化施設の整備 設備等の老朽化が進む文京シビックホールや文京ふるさと歴史館について、区民に親しまれる多様な文化芸術の発信拠点としての役割を担うため、施設の改修や事業のあり方の検討を進めます。	

0 昨年度の施策の方向性（昨年度の点検における「4 今後どのように進めていくか」）	
令和5年度は、区民の伝統芸能活動の支援、区の文化資源である競技かるた、能楽の普及に継続して取り組むとともに、文京区の歴史的資源を活用したイベントの開催を検討していきます。 また、文京ふるさと歴史館については、文化資源の発信拠点としての機能強化や地域の博物館としての展示等のあり方を検討していきます。 さらに、リニューアルオープンした文京シビックホールについて、リニューアルオープン記念事業を4年10月から5年6月（予定）まで実施し、文化芸術の発信拠点として再始動していきます。	

事業費（令和4年度） 上段：実績 下段：当初予算

1 どのような事業で・何をしたか（実績）		戦略シートの課題の解決手段として紐づけた計画事業について、「何をしたか」「何がどうなったか」を記しています。							
事業番号	事業名称	所管課	事業の持つ役割						事業費(千円)
117	文の京ゆかりの文化人顕彰事業	アカデミー推進課	本区の多様な文化的資源を継承・発掘する。						34,040千円 (30,997千円)
	主な取組実績		単位	H30(2018)	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)
	①	朗読コンテスト応募者数	人	245	216	276	253	256	
	②	歴史講演会参加人数	人	278	85	中止	76	87	
	③	史跡めぐり参加人数	人	30	30	中止	23	21	
R3(2021)	令和4年1月から4月まで、森鷗外没後100年記念事業として、森鷗外記念館において特別展を開催しました（来場者数4,200人）。								
R4(2022)	昨年度に引き続き令和4年12月まで、森鷗外没後100年記念事業として、森鷗外記念館での特別展、コレクション展等を開催しました（特別展来場者数6,760人、コレクション展来場者数4,993人）。								
118	文京ふるさと歴史館の特別展、普及事業	アカデミー推進課	本区の歴史的・文化的資源について、区民の理解を深める。						6,798千円 (9,223千円)
	主な取組実績		単位	H30(2018)	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)
	①	特別展入館者数	人	3,837	4,138	中止	3,923	2,344	
	②	収蔵品展入館者数	人	2,579	1,489	中止	1,588	1,537	
	③	歴史教室参加者数	人	187	346	69	—	342	
R2(2020)	特別展事業中止の代替として、特別展の内容をテーマとした動画をCATV及びYouTubeにおいて放映・配信しました。								
R3(2021)	令和2年度に中止した特別展の内容を一部変更し、企画展として開催しました。また、歴史教室については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ホームページ上でクイズを行えるようにするなど、来館しないで参加できる形式で開催しました。								
R4(2022)	区内のランドマークの一つである小石川植物園と連携した特別展や、寄贈された資料に基づき区ゆかりの人物と著名文化人との交流を紹介した収蔵品展など、多様なテーマで区の魅力を展示しました。3年度に引き続き、感染症対策を継続して行いました。								

文化育成事業		アカデミー推進課	区に根付いた文化芸術の継承と更なる振興を図る。					25,509千円 (34,402千円)		
		主な取組実績		単位	H30(2018)	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)
① 文化芸術の発表会等参加者数				人	15,470	15,420	6,627	6,348	10,504	
② 能楽関係事業参加者数				人	2,132	1,910	1,419	1,744	2,752	
③ 競技かるた講師の区立学校派遣校数				校	3	2	0	1	3	
119	R2(2020)	区民能楽鑑賞会等事業中止の代替として、夜能動画4本の限定配信を行い、定員計400人に対して、計954人の応募がありました。								
	R3(2021)	能プロジェクトの代替事業として、「親子で親しむ能楽タイムトラベラー」を動画配信し、233世帯の応募がありました。								
	R4(2022)	順次事業が再開され、コロナ禍で従来約4割近くだった文化芸術発表会の参加者数が約7割に回復しました。能楽関係事業の人気が高く、定期公演の招待は定員の約5.8倍、子どもを対象にした「能プロジェクト」事業は約4.0倍の応募がありました。								
文京シビックホール（響きの森文京公会堂）の施設運営		アカデミー推進課	多様な文化芸術の発信拠点としての運営を図る。					4,785,654千円 (4,739,310千円)		
		主な取組実績								
120	R1(2019)	ホールの設備更新、機能改善工事の実施設計を行っています。（令和2年夏頃まで）								
	R2(2020)	実施設計が完了し、施工業者が決定しました。ホールは令和3年4月1日から休館します。								
	R3(2021)	小ホールが令和4年3月31日に竣工し、4年10月のリニューアルオープンに向けて準備を進めています。また大ホールは、12月上旬の竣工に向けて、引続き改修工事を行っています。								
	R4(2022)	令和4年10月の小ホールリニューアルオープンに続き、12月に大ホールが竣工し、5年1月にリニューアルオープンしました。								
●特記事項（実績の補足）										
行財政運営の視点					取組実績					
行財政運営	文京ふるさと歴史館の施設のあり方とともに、スペースの有効活用を図るため、可変性のある展示機能（ARやVR技術の活用等）について検討していきます。				空調改修により、老朽化への一定の対応は完了しましたが、引き続き施設の老朽化等の対応として、トイレ改修、照明改修等の検討を進めました。可変性のある展示の導入に課題があることを踏まえ、令和5年4月の博物館法の一部を改正する法律の施行に伴う課題把握に努めました。					

2 現総合戦略において、社会ではどのような動きがあったか（社会環境等の変化）		人口の増減や、国や都の動きなど、主要課題の背景に関して、令和2年度から5年度までの現総合戦略の計画期間において、「何があったか」「今後予想される」等の社会の変化を捉えています。								
チェック	チェック項目									
有	主要課題に関連する法改正があった（今後、法改正がある）									
無	主要課題に影響を及ぼす変化等があった（今後、変化等の可能性がある）									
令和5年4月の博物館法の一部を改正する法律の施行に伴い、博物館資料のデジタル・アーカイブ化、他の博物館等との連携、地域の多様な主体との連携・協力による文化観光その他の活動を図り、地域の活力の向上に取り組むことが努力義務となりました。										

3 現総合戦略における成果や課題は何か (点検・分析)

1と2に基づき、計画期間の方向性ごとに、令和2年度から5年度までの現総合戦略の計画期間において、「課題解決にどのような成果があったか」「成果が出ない要因は何か」「新たな課題が生じていないか」などを点検・分析します。

○地域の伝統や歴史に親しむ機会の充実

森鷗外没後100年記念事業や、湯島聖堂（昌平坂学問所）を中心に開催される全国藩校サミット記念事業など、区の文化遺産を大きく取り上げる事業を全庁的に開催して、区民が地域の伝統や文化に対する関心を深め、文化芸術に親しむ契機を創出しました。令和2年度及び3年度はコロナ禍で中止・縮小した事業もありましたが、今後も区の文化資源を活用した事業を継続的に展開していく必要があります。

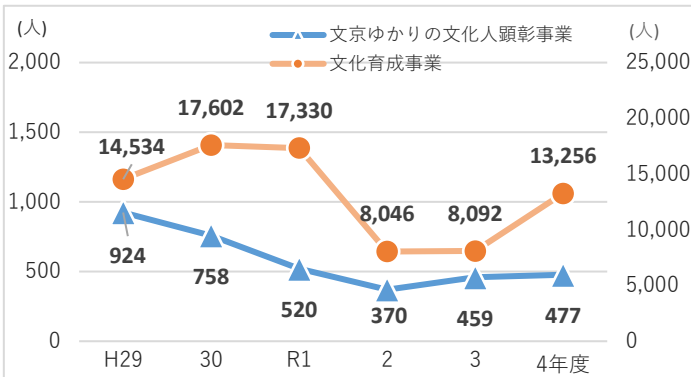
○区民に親しまれる文化施設の整備

文京ふるさと歴史館については、令和3年度は空調設備の改修工事で5か月休館しましたが、改修工事により、展示室と収蔵庫における温湿度管理機能を安定させることができました。4年には生誕160年・没後100年を迎えた森鷗外の魅力を広く内外に発信しました。4年に開館10周年となった文京区立森鷗外記念館でも多様な事業を行いました。

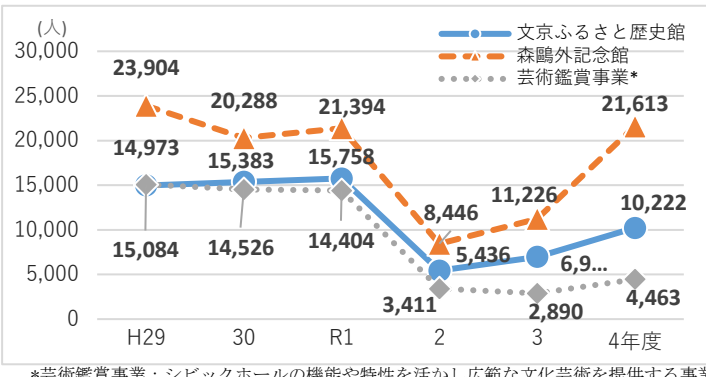
近年、博物館に求められる役割が多様化・高度化しています。博物館法の改正を踏まえたあり方を検討していく必要があります。

シビックホールは、設備の更新等を含めた大規模改修工事を3年4月から実施し、4年10月に小ホール、5年1月に大ホールがリニューアルオープンしました。引き続き文化芸術の発信拠点として、幅広い事業を展開していく必要があります。

●文化人顕彰事業・文化育成事業参加人数の推移



●森鷗外記念館等の観覧者数の推移



*芸術鑑賞事業：シビックホールの機能や特性を活かし広範な文化芸術を提供する事業

4 次期総合計画において、どのように進めていくか (展開)

3を踏まえ、「何の対応が必要か」「何をどのようにしていくか」など、令和6年度から9年度までの次期総合計画の計画期間における戦略としての進め方を記しています。

能楽や競技かるた及び文の京ミュージアムネットワーク加入施設等の貴重な文化資源を広く周知し、区民がより一層文化芸術に親しむことのできる機会を創出します。

また、文京シビックホールにおいても、引き続き文化芸術の発信拠点として、幅広い事業を展開していきます。

さらに、文京ふるさと歴史館における展示や事業等を通じて、その魅力を区内外に発信し、文化資源の再発見につなげていきます。

5 6年度、事業をどうするか (事業の見直し)

主要課題に紐づけられている個々の計画事業の6年度の検討の方向性を「継続」「レベルアップ」「見直し・縮小」「事業終了」「計画変更」で記します。

事業番号	計画事業名	所管課	次年度の方向性
117	文の京ゆかりの文化人顕彰事業	アカデミー推進課	継続
118	文京ふるさと歴史館の特別展、普及事業	アカデミー推進課	継続
119	文化育成事業	アカデミー推進課	レベルアップ
120	文京シビックホール（響きの森文京公会堂）の施設運営	アカデミー推進課	継続